

阿 蘇 山

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

2 概 況

中岳第一火口では、火口底の一部で赤熱現象¹⁾を観測するなど、浅部の熱的活動はやや活発な状態で経過しています。

- ・阿蘇火山博物館の火口カメラで 11 日夜から火口底の一部で赤熱現象を観測し、その後も時折赤熱現象を観測しています。
- ・中岳第一火口の湯だまりの表面温度は 70 前後の高い状態が続いています。湯だまり量は約 3 割から、11 日に約 2 割に減少しました。また、湯だまり内では小規模な土砂噴出が継続しています。
- ・火山性連続微動の振幅は小さい状態が続いています。

3 火口や噴気地帯の状況 (図 1, 2)

- ・阿蘇火山博物館の火口カメラで 11 日夜から火口底の一部で赤熱現象を観測しました。その後も時折、赤熱現象を観測しています。
- ・中岳第一火口の湯だまりの表面温度は 69~74 で経過し、湯だまり内では高さ 1 ~ 5 m の小規模な土砂噴出が継続しています。また、湯だまりの量は減少傾向が続き、11 日の現地観測では約 2 割に減少しました。

4 噴煙活動の状況 (図 2, 3)

噴煙は白色・少量で、噴煙高度の最高は火口縁上 500m でした。

5 地震・微動活動の状況 (図 2 ~ 4)

火山性地震の月発生回数は 419 回 (前月 477 回) で、やや減少しました。

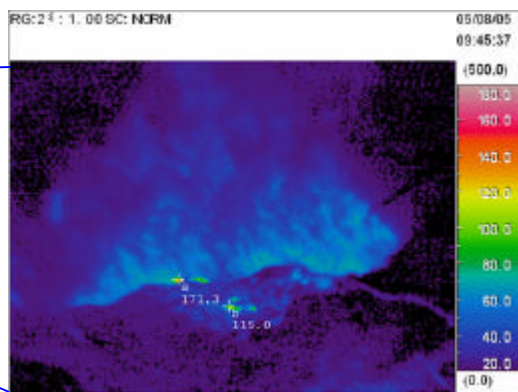
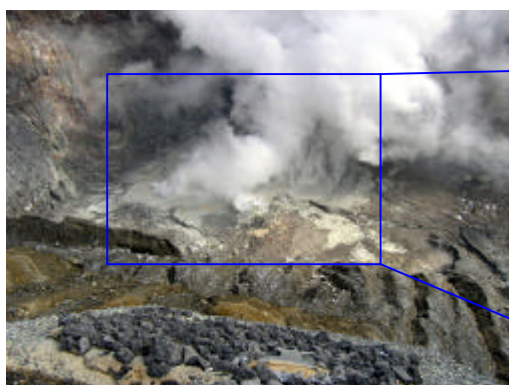
孤立型微動の月発生回数は 2,502 回 (前月 3,165 回) で、前月よりやや減少しました。火山性連続微動の振幅は小さい状態が続きました。

6 地殻変動の状況 (図 5)

GPS による地殻変動連続観測では、火山活動に起因する変化はありませんでした。

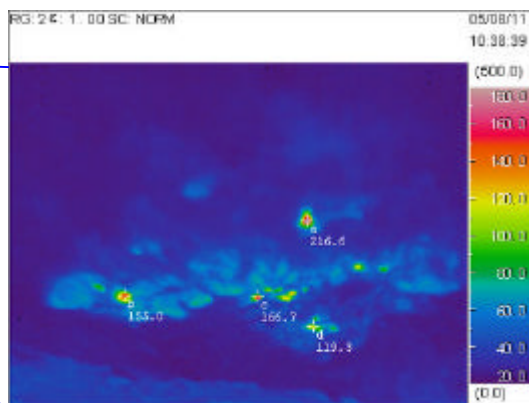
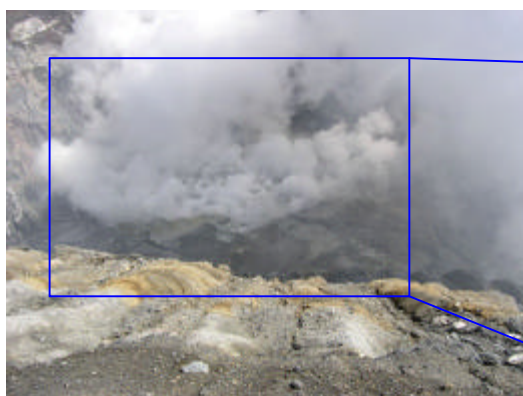
なお、国土地理院が行っている広域の観測によれば、阿蘇山を取り囲む基線では、2004 年後半頃から山体の膨張を示すわずかな伸びが観測されています。

1) 赤熱現象は、高温の火山ガスなどが噴出する際に周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。阿蘇山では、過去に赤熱域が拡大したのち火孔が開孔し、噴火活動が活発化したことがある。



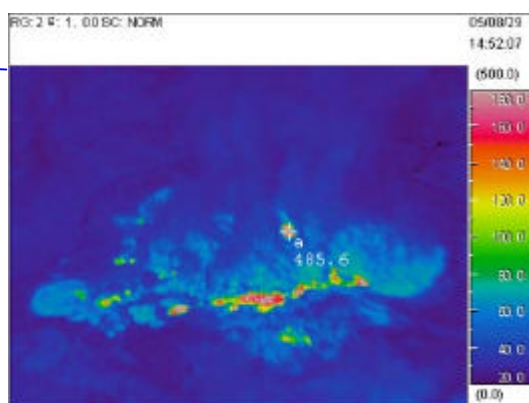
8月5日

湯だまり量は約3割。色は灰色。温度は74（赤外放射温度計）。土砂噴出は多数あり、高さは2～3m。



8月11日

湯だまり量は約2割に減少。色は灰色。温度は71（赤外放射温度計）。土砂噴出は他多数あり、高さは1～3m。



8月29日

湯だまり量は約2割。色は灰色で、表面温度は74（赤外放射温度計）。土砂噴出は多数あり、高さは2～3m。

図1 中岳第一火口の状況(南西側から撮影)

阿蘇火山博物館の火口カメラで11日夜から火口底の一部で赤熱現象を観測しました。その後も時折、赤熱現象を観測しています。

湯だまり量は減少傾向で約3割から11日に約2割となりました。

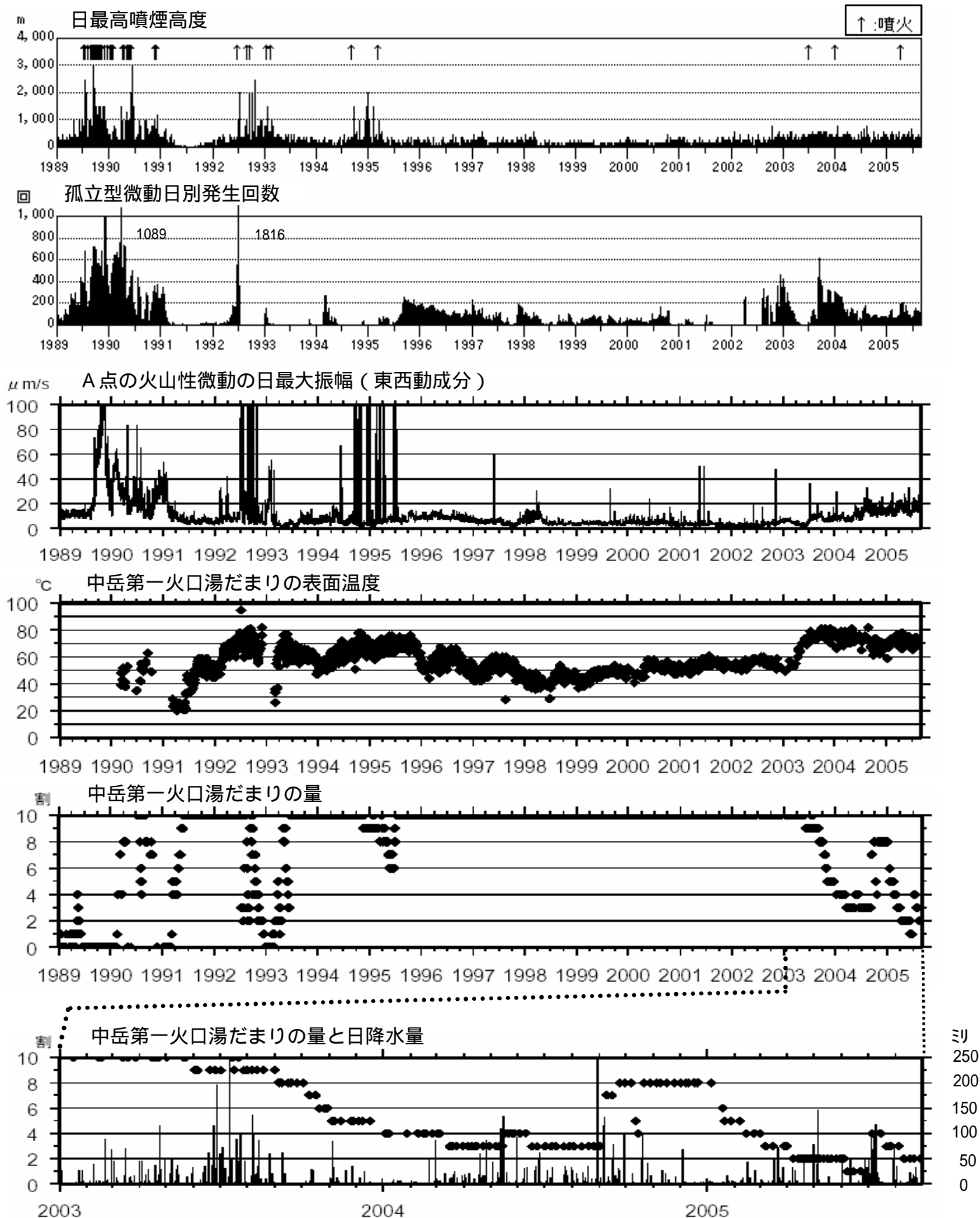


図2 火山活動経過図(1989年1月1日～2005年8月31日)
 湯だまりの表面温度は2003年5月中旬頃から70前後と高い状態が続いています。
 湯だまりの量は2005年8月11日に約2割に減少しました。

阿蘇山

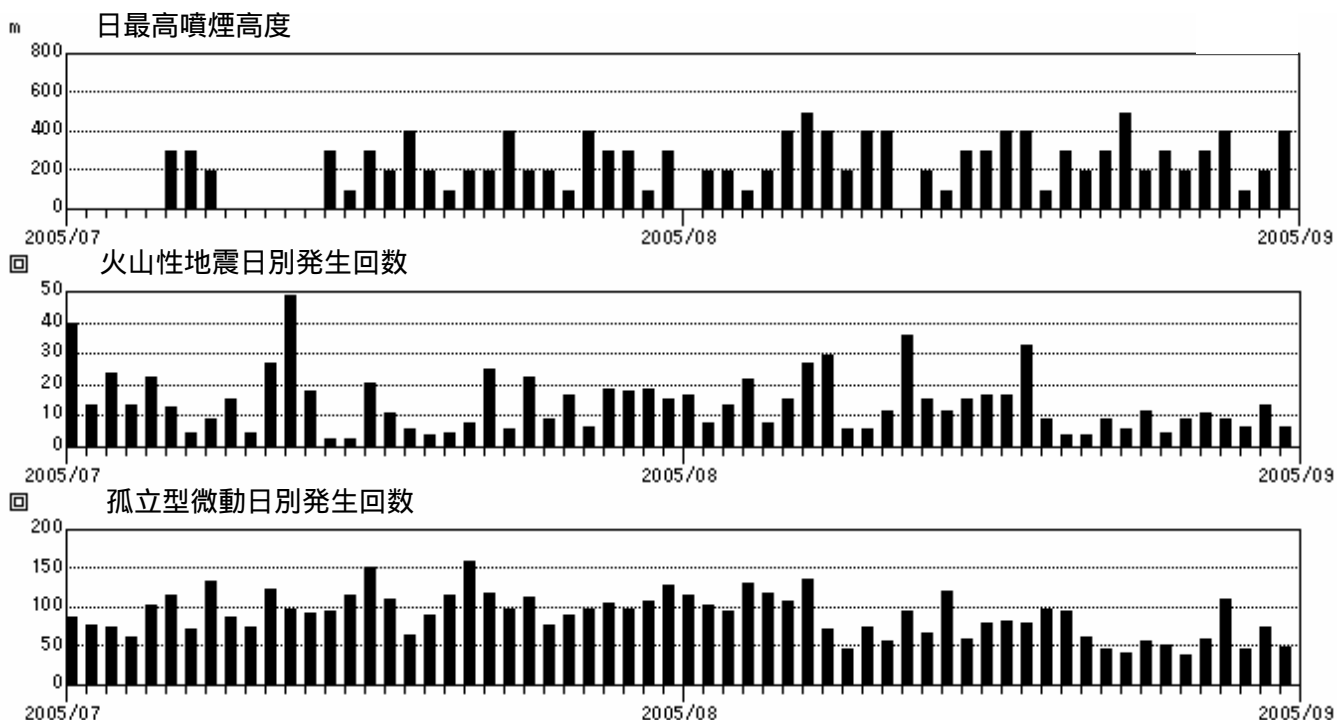


図3 火山活動経過図(2005年7月1日～8月31日)
地震、孤立型微動ともにやや減少しました。

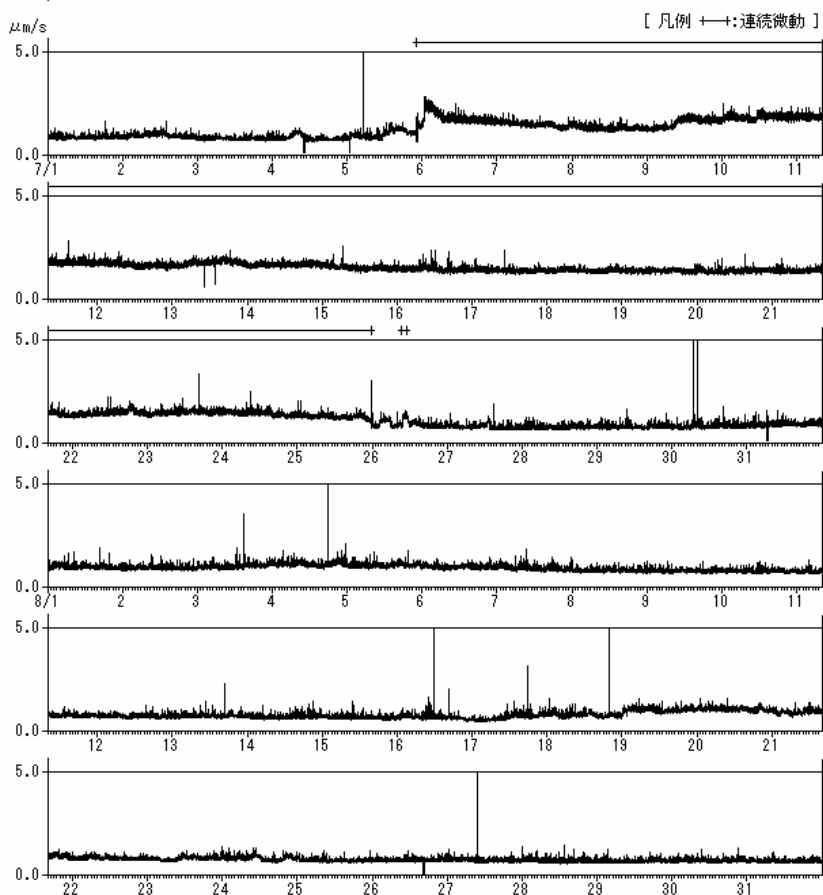


図4 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)(2005年7月1日～8月31日)
7月26日以降、火山性連続微動の振幅は小さい状態が続いています。

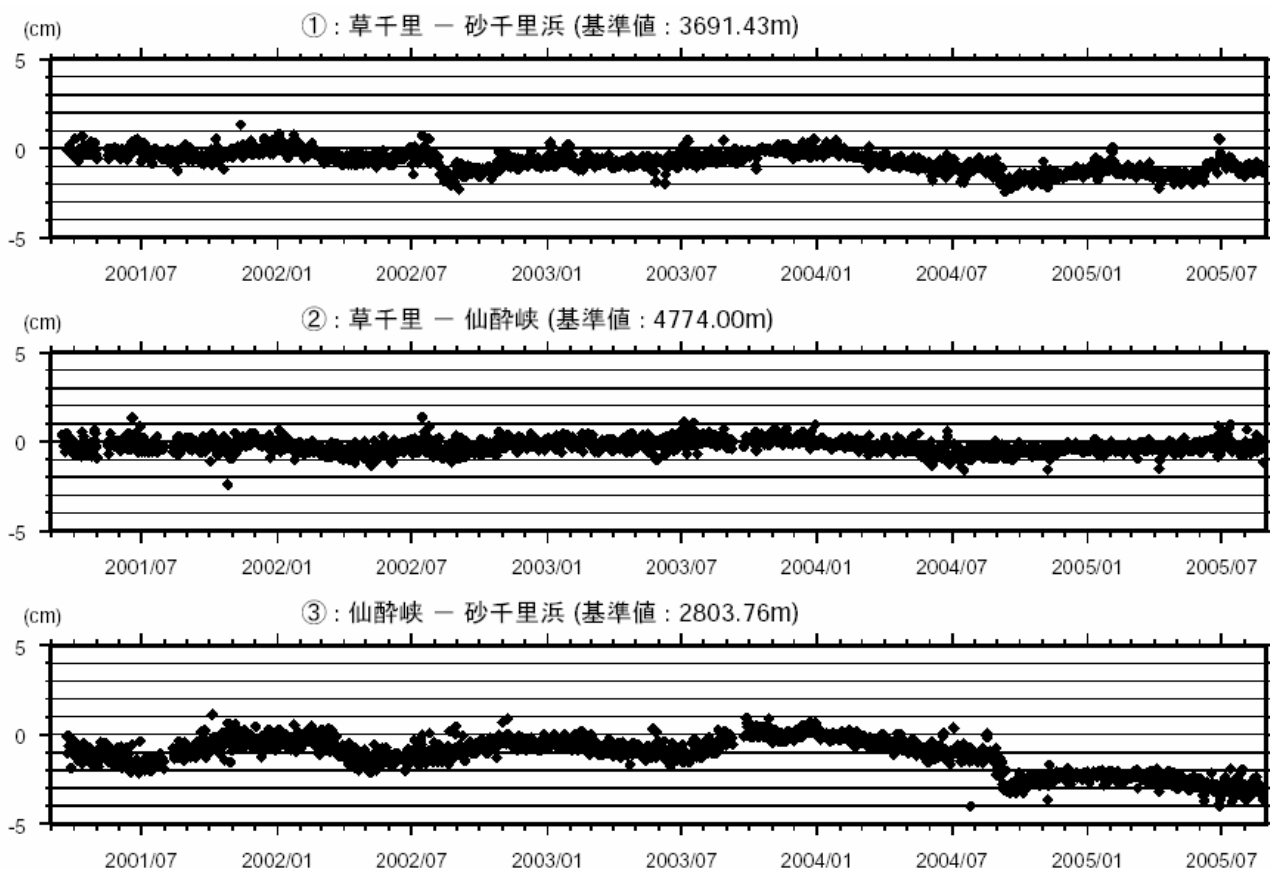


図5 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日~2005年8月31日)
火山活動に起因する変化はありませんでした。

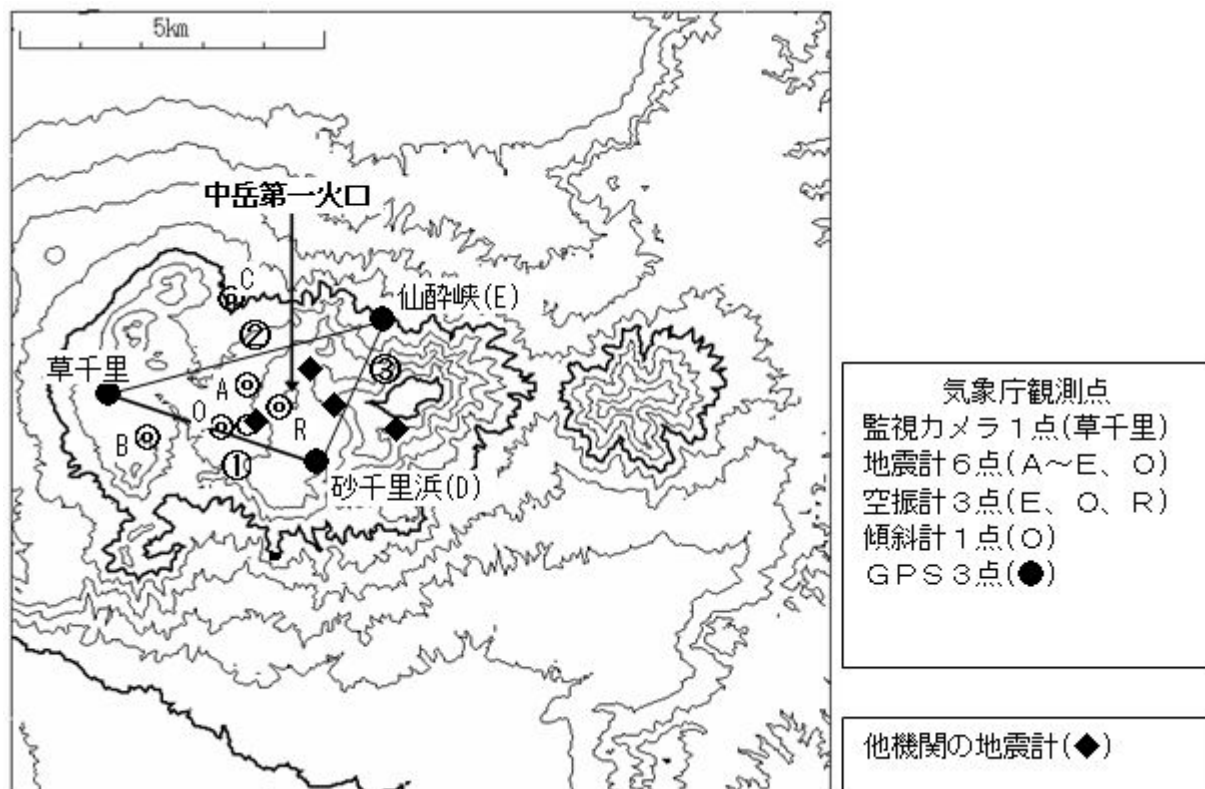


図6 観測点位置図